

問1	足利義政が将軍を務めていた時期の政治・社会情勢について述べた文として、正しいものはどれですか。 （2015年 山口県公立入試 類似）			
	1. 将軍の後継者問題をきっかけの一つとして応仁の乱が起こり、戦乱が11年も続いて京都が荒廃した。	2. 織田信長による天下統一が進み、室町幕府の最後の将軍が京都から追放された。	3. 幕府の権威が全盛期を迎え、明との勘合貿易によって経済が飛躍的に発展した。	4. 元（モンゴル帝国）による二度の襲来に対し、執権を中心に全国の御家人が一致団結して戦った。
問2	ある地域の歴史年表において、400年頃の古代から1863年の近代までの流れが示されています。このうち、1398年が含まれる院政期から室町時代の終わり頃までの時代区分を指す名称として適切なものはどれですか。 （2017年 鳥取県公立入試 類似）			
	1. 古代	2. 近世	3. 中世	4. 近代
問3	14世紀後半から15世紀にかけて、琉球王国がアジア各地の産物を集め、国際的な貿易拠点として成長できた背景について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 （2024年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 明（中国）への朝貢を通じて得た中国の産物や、東南アジアの香辛料、日本の刀剣などを互いの地域へ転売する仕組みを築いたため。	2. 江戸幕府から派遣された長崎奉行による管理のもと、出島を通じてオランダや清との独占的な取引を認められていたため。	3. 幕府の将軍の代替わりごとに謝恩使や慶賀使を派遣し、日本国内における貿易の独占権を公式に認められていたため。	4. 朝鮮半島で創られたハングルなどの文字文化を積極的に取り入れ、周辺諸国との外交交渉を有利に進めることができたため。
問4	室町時代、足利義政が築いた東山文化において確立された、畳を敷き詰め、襖や障子、床の間などを備えた建築様式を何といいますか。現代の和室の原型ともなった名称を答えなさい。 （2021年 奈良県公立入試 類似）			
	1. 校倉造	2. 唐様	3. 書院造	4. 寝殿造
問5	室町時代後期の15世紀後半、京都の東山に山荘を築いた第8代将軍の足利義政は、禅宗の影響を受けた簡素で気品のある「東山文化」を築きました。この文化を代表する建築物で、二層の楼閣からなり、下層に住宅様式の新しい特徴が見られるものを次の中から選びなさい。 （2023年 島根県公立入試 類似）			
	1. 銀閣（慈照寺）	2. 唐招提寺金堂	3. 平等院鳳凰堂	4. 金閣（鹿苑寺）
問6	室町時代に全国へと普及した、一年の間に同じ田畑で米と麦のように異なる作物を交互に栽培する農法を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 （2022年 岐阜県公立入試 類似）			
	1. 輪作	2. 転作	3. 二期作	4. 二毛作
問7	室町時代に現れた北山文化や東山文化などの具体的な事例について述べた文として、正しいものはどれか。 （2020年 福岡県公立入試 類似）			
	1. 浮世絵や歌舞伎など、都市の商人の好みを反映した娯楽が全国に普及した。	2. 文明開化の波を受け、レンガ造りの建物や洋服といった新しい風俗が取り入れられた。	3. 唐招提寺の建築のように、遣唐使が持ち帰った大陸の文化がそのまま再現された。	4. 金閣や銀閣の建築に代表されるように、公家の優雅さと武家の精神が組み合わせあった。
問8	室町時代中期の1467年に始まり、細川勝元と山名宗全の対立などを背景として11年間にわたって続いた、戦国時代の幕開けともされる戦乱の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。 （2025年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 保元の乱	2. 観応の擾乱	3. 承久の乱	4. 応仁の乱
問9	室町時代に足利義満が再開した日明貿易において、日本側がとった対外的な姿勢とその背景について述べたものとして、最も適切なものはどれか。 （2024年 福井県公立入試 類似）			
	1. 明の皇帝に対して臣下の礼をとる「臣従」の形式（朝貢）をとり、日本国王の称号を得ることで、貿易の利益とともに国内での将軍の権威を高めようとした。	2. 朝鮮半島での利権をめぐる明と対立したため、宗教的な結びつきのみを重視し、経済的な交流を一切断つ姿勢をとった。	3. 倭寇の活動を支援する立場から、明の皇帝に対しては独立した国家であることを宣言し、朝貢の形式を拒否し続けた。	4. 明の皇帝と対等な立場での国交を求め、武力を背景にして、勘合を用いない自由な貿易路を確保しようとした。
問10	室町時代、商工業者が公家や寺社などの権力者に税を納める代わりに、商品の販売や製造の独占権を認められていた同業者組合を何と呼びますか。 （2020年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 座	2. 問	3. 株仲間	4. 町衆
問11	室町時代における経済制度の一つである「座」の仕組みについて、当時の社会背景を踏まえた説明として正しいものはどれですか。 （2016年 広島県公立入試 類似）			
	1. 武士が商業を管理するために組織したもので、農村から都市への人口流出を防ぐことを目的としていた。	2. 織田信長が楽市・楽座を導入したことにより、それまで座が持っていた特権が全国でさらに強化された。	3. 商人や手工業者が有力な寺社や公家に所属し、奉仕や納税を行うことで、他者の営業を排除する特権を得ていた。	4. 外国との貿易を円滑に進めるために作られた公的な機関であり、銀の輸出を独占的に行っていた。
問12	日本の歴史における文化作品とその時代背景について述べた次の説明のうち、室町時代の東山文化に該当するものはどれですか。 （2017年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. 龍安寺にある、水を用いず石と砂のみで自然の風景を表現した石庭	2. 尾形光琳によって描かれた、徳川綱吉の時代の華やかさを象徴する風神雷神図屏風	3. 出雲の阿国が京都で始めたとされる、後の歌舞伎の原型となった芸能	4. 狩野永徳によって描かれた、金箔を多用し力強い筆致が特徴の唐獅子図屏風
問13	室町時代の対外関係について述べた次の文のうち、三代将軍足利義満が行った政策として正しいものはどれですか。 （2025年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 元軍による二度にわたる侵攻を退けた後、中国大陸との交流を一時中断した	2. 明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる勘合貿易を開始した	3. キリスト教の広まりを警戒し、欧州諸国との貿易を平戸と長崎の二港に制限した	4. 琉球王国を仲介役として、東南アジア諸国との間で中継貿易を盛んに行った

答え合わせ・解説

問1	答え 1 将軍の後継者問題をきっかけの一つとして応仁の乱が起こり、戦乱が11年も続いて京都が荒廃した。	義政の跡継ぎを巡り、妻の日野富子や有力守護大名の細川氏・山名氏らが対立したことで、1467年に応仁の乱が勃発しました。この戦乱によって幕府の統制力は失われ、実力のある者が上の者を倒す「下克上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入することになりました。
問2	答え 3 中世	日本の歴史区分では、律令国家が成立した古代の後に続き、武士が政治の表舞台に現れる院政期から、室町幕府が滅亡するまでの時期を「中世」と呼びます。1398年は室町幕府の第3代将軍である足利義満が、京都の北山に金閣を建立するなど権力を振るっていた時期に当たります。
問3	答え 1 明（中国）への朝貢を通じて得た中国の産物や、東南アジアの香辛料、日本の刀剣などを互いの地域へ転売する仕組みを築いたため。	琉球王国は明との朝貢関係（中国の皇帝に貢ぎ物を届ける形式の貿易）を維持しつつ、そこで得た絹織物や陶磁器を日本や朝鮮に運び、逆に東南アジアからは香料や染料、日本からは刀剣や銀などを仕入れて各地へ運ぶ中継貿易を行いました。選択肢にある長崎奉行や幕府への使節派遣（謝恩使・慶賀使）は、17世紀以降の薩摩藩による侵攻後の状況であり、15世紀の繁栄の理由としては不適切です。
問4	答え 3 書院造	室町時代の東山文化では、禅宗の影響を受けた簡素で機能的な武家の好みが反映されました。慈照寺東求堂同仁斎（じしやうじとうぐどうどうじんさい）に代表されるこの様式は、書斎としての機能を持つ「書院」や「違棚（ちがいだな）」を備え、現代の和風住宅の基礎となりました。平安時代の貴族の住居様式である寝殿造とは、床に畳を敷き詰める点などで大きく異なります。
問5	答え 1 銀閣（慈照寺）	足利義政によって建てられた銀閣は、東山文化の象徴的な建築物です。1層目は「書院造」という住宅様式で造られており、2層目は禅宗様式の仏殿となっています。華麗な金閣（北山文化）とは対照的に、わび・さびを感じさせる落ち着いた美しさが特徴です。
問6	答え 4 二毛作	鎌倉時代に西日本から始まり、室町時代に全国へと広がったこの農法は、夏に米を、冬に麦を栽培する形式が一般的です。一年に同じ作物を2回収穫する「二期作」とは、栽培する作物の種類が異なる点で区別されます。
問7	答え 4 金閣や銀閣の建築に代表されるように、公家の優雅さと武家の精神が組み合わさった。	足利義満が建立した金閣は公家文化と武家文化の融合を象徴し、後の足利義政による銀閣は、禅宗の精神を取り入れた書院造を特徴としています。これらは室町時代の「公家文化と武家文化の融合」を具体的に示す事例です。選択肢にある町人文化（浮世絵など）は江戸時代、遣唐使の影響は飛鳥・奈良文化、文明開化は明治時代の事象です。
問8	答え 4 応仁の乱	足利将軍家の跡継ぎ問題と、幕府の政治を支える有力な守護大名の権力争いが結びついた戦乱です。京都での戦いは長期化し、守護大名たちが領国を離れて京都に滞在し続けたため、各地の在地勢力が力を蓄える結果となりました。
問9	答え 1 明の皇帝に対して臣下の礼をとる「臣従」の形式（朝貢）をとり、日本国王の称号を得ることで、貿易の利益とともに国内での将軍の権威を高めようとした。	足利義満は、明との正式な貿易を開始するにあたり、明を中心とした国際秩序に組み込まれることを選択しました。具体的には、明の皇帝に対して臣下としての礼をとる「臣従」の形式（朝貢貿易）をとり、自らを「日本国王」と称しました。これにより、明から正式な貿易の許可を得て莫大な利益を上げると同時に、中国の皇帝から認められた統治者としての地位を、日本国内の守護大名などに対する権威付けに利用しました。
問10	答え 1 座	平安時代から室町時代にかけて、商人や手工業者は「座」を結成しました。彼らは「本所」と呼ばれる貴族や大寺社に奉仕や税を捧げることで、関所の通行税免除や商品の独占販売権などの特権を得ていました。この仕組みは、後に織田信長が「楽市・楽座」によって特権を廃止し、自由な貿易を促すまで続けました。選択肢の「株仲間」は江戸時代に幕府の公認を得て活動した組織です。
問11	答え 3 商人や手工業者が有力な寺社や公家に所属し、奉仕や納税を行うことで、他者の営業を排除する特権を得ていた。	座は、当時の有力な権力者である寺社や公家に属することで、自分たちの商売を保護してもらう仕組みでした。これにより、特定の地域や市場で特定の品物を独占的に売ることができ、新規参入者を防いで利益を確保しました。戦国時代になると、城下町の活性化を目指す大名たちが、この座の独占権を否定する「楽市・楽座」の政策をとるようになり、自由な取引が奨励されるようになります。
問12	答え 1 龍安寺にある、水を用いず石と砂のみで自然の風景を表現した石庭	龍安寺の石庭は室町時代の東山文化を代表する作品です。他の選択肢について、唐獅子図屏風や阿国歌舞伎は織田信長や豊臣秀吉が活躍した安土桃山文化の特色であり、尾形光琳の作品は江戸時代の元禄文化に属します。時代ごとの担い手や好みの違いを区別することが重要です。
問13	答え 2 明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる勘合貿易を開始した	足利義満は、巨大な帝国であった明との貿易による利益を重視し、明の皇帝に対して臣下の礼をとる「日本国王」の称号を受け入れました。これにより、形式上は中国の皇帝に貢ぎ物を捧げる「朝貢」という形での貿易が始まりました。選択肢にある元軍への対応は鎌倉時代の北条時宗、貿易港の制限は江戸時代の幕府、琉球王国による中継貿易は主に尚氏による統治下の出来事であり、義満の政策とは異なります。